第２回　千代田地区学校再編地域協議会　議事録

１　日　　時　令和８年８月30日（日）　午前10時から午前11時35分まで
２　場　　所　千代田市民センター研修室
３　出席者　　委員19名中15名、顧問
４　説明のため出席した職員　４名
　　教育部長　大口　伸、教育部次長兼庶務課長　江頭　弘幸、
　　庶務課主幹　鈴木　達哉、庶務課主任　大島　政之

◎協議事項
説明後の主な意見（Ｏ.）や質疑応答（Ｑ．Ａ.）等は以下のとおりです。
（１）にじの丘学園の視察について
資料２について、事務局より説明をしました。質疑等はありませんでした。

（２）学校の再編手法に係る比較検討について
資料３について、事務局より説明をしました。
委員Ｑ．千代田ヒナギク児童センターを利用している学校ごとの人数を教えてほしい。送迎している保護者の数も教えてほしい。
事務局Ａ．児童センターの利用状況については、次回までに確認する。
委員Ｏ．私が知る限り千代田ヒナギク児童センターの利用状況は、平日は60人くらい。登録は70人～80人で、今の時期だと100人超えるような状況にあると思う。
千代田ヒナギク児童センターは、４時頃から５時が保護者の送迎のピークになり、皆さんの多くが市民センターの駐車場、もしくはセンター前でお子さんを預かって帰る。遅い人だと７時半まで預かってもらえるので、そういう人でも６時以降にバラバラと来る。学校が休みの時は、朝の７時半から夜の７時半までセンターが預かるので、送迎に関しては結構長い時間になる。人数的には多分皆さんが思っている以上と思う。
委員Ｑ．未就学児は何人ぐらいいるのか。
委員Ａ．水曜日に、小さいお子さんが集まったり、お母さんと一緒に遊ぶ教室があり、少ない時は１人、２人ぐらい。多くても10人ぐらい。学校の児童がいない時間、平日の午前中に実施している。
委員Ｏ．千代田小児童300人に対して利用者50人ほどというと、割合的に多い。数字を見ると、今回の再編の検討資料にもあるように、公共施設の複合化を考えるにおいて、こういった児童センター的施設との共用、そういうものが非常に有効な手段ではないのかなと今、実数をお聞きする中で痛切に感じた。
委員Ｑ．新たな用地に校舎を建てる場合、用地の候補地や用地を確保するための予算が必要だと思うが、現実的なのか。その費用や場所的に厳しいというのであれば、この場で話し合う段階ではないのかなと思う。

事務局A．新たな用地の候補地は現在のところない。市の優先的な考え方としては、まずは既存の学校施設、市有地を大前提とする。どうしてもそこで支障がある、どうしてもそこでは建てられないなど、条件的に無理だということであれば、新しい土地を探すことになるが、新しい土地を探すとなると、それなりの一体的な大きな敷地が必要であり、期間も必要となる。財政的なこともかなり負担になるので、できれば既存の市有地、学校敷地を第一候補として考えていただきたい。

委員Q．例えば、一つの敷地に小中学校両方の建て替え、場所によっては手狭であるとか、校舎は何階建てまでしなければいけないという決まりはあるのか。

事務局A．この千代田地区は市街化調整区域になるので、高さ制限で原則 10 メートルが上限だったと思う。実際には具体的な協議が必要になると思う。

委員Q．南麻績に、新しく工場ができた。工場の周りは市街化調整区域で、10 メートルをはるかに超える工場が建設されている。一般の工場が 10 メートル以上で造っているなら、学校も問題ないのでは。ましてや公共的なものでそういう建物を造れるのであれば、逆に猶予されてもいいのでは思うが。

事務局A．市街化調整区域に建設する場合にはなかなか難しい条件があるが、建築基準法だけじゃなく都市計画法も関係してくる。それぞれの建物の種類、条件、敷地の大きさなどによっても変わってくるため、把握して相談したいと思う。

委員Q．B-3 で新たな用地でとあるが、規模はどう考えているのか。例えば、現在、中学校で 25,000 ㎡、小学校で 15,000 ㎡。そのうちの 8,000 ㎡が現在、借地をしている。借地を返しても一体整備したら、新たに用地を取得する面積ぐらいの規模になるのか。

事務局A．B- 3 は、小学校と中学校の敷地を一体にする案だが、小中学校一体で 30,000 ㎡程度は必要と思われる。

委員O．千代田中学校を小中学校一体として考えると、約 40,000 ㎡となるので、運動場部分の借地を返還するとしても、敷地全体として建てるスペースは確保できる。道路配置や形状の改良のための費用は発生するかもしれないが、最小限で済むのではないか。仮に新たに一貫校を造る時は 3 0,000 ㎡でよければ、現在中学校が 25,000 ㎡、小学校で 15,000 ㎡。合計 40,000 ㎡ある。そのうちの 8,000 ㎡の借地を返還しても 32,000 ㎡残る。なので、用地の大きさ、規模としては十分だと思う。

委員O．良いアイデアで考え方は正しいと思うが、飛び地みたいな感じで三か所に分かれてしまうので、実際には現実味がちょっと薄いかなと思う。敷地は広く余裕があっていいものなので、用地買収のほうは積極的に進めてもらいたい。建設するまでには時間もあるので、もしもここに建てるなら、用地買収を進めてもらいたい。

委員O．新しく用地を買ってまでやる必要はないと思う。なぜかというと、今話があったように、千代田小学校と千代田中学校が千代田の真ん中にあるので、この近くに新しい校舎を建てれば、できると思う。用地を買収するとなると、どこに建てるかを検討し、それから用地を買収しなければならず、期間がものすごく長くなる。新たな用地を買収せず、既存の学校施設の方向で考えたらいいと思う。

委員Q．今、学校のグリーンサンド化が進んでいたり、体育館にクーラーをつけたり、トイレの洋式化を進めていると思うが、それに予算がかかっている。なのに、この事業を進めるというのが現実的ではないかなと。体育館にせっかくクーラーをつけたのに、それを取り壊す。何億もかかっているのでは。中学校の体育館に９台ぐらい設置されていると思うが、多分中学校の体育館から進めていき、その後、小学校で進めるという。稲沢市内全部の小中学校で整備する。トイレの洋式化も進めている。運動場のグリーンサンド化も進めている。それなのにこの事業を進めるというのがちょっと非現実的だと思う。

もう一つは、例えば新校舎を建てるにしても、子どもたちが利用する環境が変わることが一番、よくないと思う。それだったら千代田小学校を３年か４年をかけて少しずつ改良し、新校舎にするというのが一番効率的じゃないかと思う。坂田小学校には体育館のクーラーはつけないとか。今、通っている人には申し訳ないが、お金の事情がどうなのかは分からないが、お金のことを考えると。

事務局Ａ．屋内運動場の空調については、中学校の設置が終わり、来年度から小学校にも設置していく。小学校の屋内運道場は、再編したら壊すのでなくて、中学校と一緒で、避難所として使用していく。坂田小学校の屋内運道場にも空調をつけて、地域のための避難所、あるいは選挙の時の投票所としては有効活用をしていくので、壊したりはしない。

グリーンサンドについても、各校で計画的に実施したいが、予算の都合により実施ができず、中学校については、千代田中学校はグリーンサンド化していない。近々やる予定もない。それは学校建て替えを計画しているので、それに合わせ運動場を整備する際に、グリーンサンドにもできればと計画を立てているところ。

環境変化については、まずこの計画は、既存の学校が今の時点ですでに老朽化しており、建物自体が色々と崩壊しており、早く建て替え整備しなければならないという中で策定した。整備ができるだけ早くできるように、こうした方がいいのではないかといった中で、皆さんに御意見をいただいている。

委員Ｏ．この協議会での意見は、どれぐらい反映されるのか。ここの意見が市のほうに行って、市の決定権者が「はい、そうですね」というものなのか、一意見として取り入れるものなのか、どこまで反映されるのか。今協議していることは、多分審議に格上げされる。そのうち上がっていき、今協議、審議になっていつまでにこれ決定しないといけないとか、終わりが分からないと思っている。今日、初めてこの検討表を見させていただいたが、まずこの費用の部分まで、財政面まで我々が協議しなければならないのか。これは市の仕事と思う。我々がやるべきことは、地域環境だったり、教育面に対して保護者だったり、周辺の人たちがこう思っているんですよという、こういうふうにしていただけたらいいですねということを吸い上げる場ではと思う。そこを議論すべきじゃないかと思う。今、小学校を単純に再編にするのか、小中一貫にするのかというところの大きな選択肢をこれから選んでいくべきところだが、初期から議論しているから、この話、紛糾して進まないのでは思う。というところを分けて協議するといいのではないかと思う。

しかし、そこを全部含めて検討してほしいということであれば、そのところで例えば費

用がいくらぐらいかかるとか、期間はこれぐらいかかるとかいう具体的な数字が何もないので、我々議論のしようがない。協議の題材に挙がるような資料がない。そこら辺まで踏み込んでいただかないと我々判断できない。とんでもない議案ばかりがどんどん上がってきて、これ多分収拾つかないと思う。一度整理していただけるとありがたい。そうすると我々も参加する人間として、どこを考えていけばいいのかなという準備ができると思うので、ぜひお願いしたい。

会長Q. 協議会でまとまった要望を教育委員会に提出する。今日の比較資料を参考に小中一貫にするのか、坂田に造るなら造る、造らないなら造らないという大きな方針を決めていただきたい。予算がつくのはその後なので、まず方針が決まらないと、先ほども出た小中一貫なら一貫、あるいは千代田小学校だけ分離で造る、坂田は後でやるとかいう根本の資料が今日のものなので、これが話し合いで教育委員会に私たちの希望、要望を出せばかなり尊重されると聞いているがどうか。

事務局A. この協議会で、方向性を話し合っていただいて、教育委員会に出していただくが、その全ての項目が必ず実現できるかというと、なかなか難しいかもしれないが、最大限尊重するというところで、教育委員会のほうは最終的に判断をさせていただく。その方向性を判断するときに、今日の資料のような内容ではなかなか判断が難しいのではということだが、具体的に出すのは今日が初めてなので、費用面も入ってない状態のものとなっている。このままでは判断は難しいところもあるが、不足するようなもの、こういったものが欲しい、こういったものもどうなのかというところもいろいろとご指摘いただいて、それに基づいて事務局がまた次に資料を用意させていただき、それをもって皆さんで議論をしていただきたいと思う。費用面については、市で検討するものになるので、新しい土地に建てるというのはかなりの費用負担があるため、事務局としても新しい土地でなくて、できれば既存の学校施設、そこを活用していただきたいと思。そういったお話で皆さん、今後協議を進めていければと考えている。

会長O. お話が出ているのは、小中一貫の千代田小と中を一緒にして考えてほしいという意見がかなり出ている。それを踏まえて今後やっていけるような資料を出していただけると、スムーズにいくのでは。

委員O. 今日はこのように小学校の再編でいわゆるAからA-3、小中再編でBからB-3まで出た。非常にいい資料が出たなと思う。なぜなら、基本的には前回の会議では、千代田小中合併でそういう再編でいきましょうというようなことにまとまったが、じゃあそれの根拠といったら何ですかと。これで比較すれば、B-1というのは全ての項目でマイナス要素は本当に少ない。これで B-1 の方向でこの会議を進めるということで、具体的な話ができる。この辺のところの理解を皆さんいただいて、これで進めるぞというふうになってくれば、会議はより効率的に進むような気がする。先ほどおっしゃったように、新たな用地というのは、基本計画で出されただけだと思っていて、当初、市の方が考えている予算 40 億かどうかはわかりませんが、それも新たな用地費はきっと入ってないと思う。基本的には小中一貫で今の土地のところに基本的に建てるというような目論見で出ている

のが 40 億くらいじゃないかなというふうに勝手に想像している。この B-1 の方向で基本的にいろいろ議論を進めていけば効率的ではと思う。

事務局A．先ほどのご質問で時間的な話があった。期間としてはこの地域協議会で１年から２年を考えている。具体的な方向性が出るまでに、もしかしたらそれ以内に収まらないかもしれないが、事務局としては１年から２年の間に方向性を出していただけたらと思う。

そこで、前回の資料１にあるが、方向性を決めていただく、検討していただく内容としては、学校再編の方法、計画では千代田小学校と坂田小学校を統合するとあるが、こういった方向性がいいのか、それからスケジュール的な話、その話がまとまってから、基本構想、基本設計、実施設計、建設が３年ということですので、大体７年ほどかかる。この話し合いがまとまってから７年くらいで開校となる。それから新たな学校の場所の決定、通学方法、通学支援はどこからの範囲で行うか、学校の跡地の利用方法、避難所機能の在り方、こういったものを、皆さんで協議を進めていただくための地域協議会になっている。

会長O．できればもう少し早く進めてほしい。今出ているのが大体煮詰まってきているのに、さらにこれを伸ばす。何を伸ばすのか。そんなことよりも話し合いを進めていった方がいいと思うし、時間的に待つ意味がわからない。私たちのやれる限り、これ以上細かいこと言われてもという気がする。前は１年ぐらいだと聞いていたが、今は２年。

事務局O．大きな内容を言うと、まずは学校の場所が決まれば、そこから通学支援はどこから行うかという具体的な話に入っていくので、まずは場所をどこにするかという、こういうところが決まっていくと、その後の協議内容というのは、割と円滑に進んでいくのではと思う。

委員O．前回の話の中で、小中一体の方がいいのではという方向性なのかと認識はしていたが、小中一体にしましょうという決定まではいってないのかなという認識をしていた。今決めないといけないのは、その小中一体にするのか、別々にするのかというのをはっきりさせないといけないというところと、あと場所をどこにするかというのをはっきりさせないと、そこから先の議論が難しいと思うが、この中の共通認識でこういう方針にしましょう、と決定して、じゃあ次の議論を進めていきましょうと言わないと、なかなかこの先の話は難しいのかなと思う。そこをいつまでにはっきりさせるのか。今日、はっきりさせたいのかというのをまず決めていただきたい。

委員O．予定している現地視察の後、そこでまたやっていいかなということだったら、それでまたいろいろな意見出ると思う。

会長O．そこで、どういう方式でいくか、どこにしようか、の２項目ぐらいは決めたい。

委員O．視察をしてからの方がいいと思う。

委員Q．小中一貫にすると市内初めての学校となるので、それをこの場で小中一貫にしますと言って、通るものなのか。

会長A．この場の意見は尊重してもらえるとなっているので、意見は通る。できるかどうかは別。

委員Q．通らなかったらどうするのか。また振り出しに戻るのか。

会長A．通らなかったらその段階でもう一度一緒に作る、意見をまとめる。その大枠が決まらないと、この協議会が何のためにあるのかわからない。

委員O．見学先の瀬戸は、多分かっこいい学校だと思うので、皆さんそうだなそうだなと言われると思うが、多分小中一貫にすると課題がいっぱいあると思う。それが先ほど説明飛ばしちゃった13の教育面だったりする。これをじゃあ稲沢としてどう解決していくのか、千代田としてどう解決していくのかということが見えないと、じゃあこっちに行きましょうなんていうことが多分言えないと思う。視察を受けて、あ、よかったね、では多分済まないと思うので、そこから生まれてくるこの千代田地区に想定される課題をちゃんと洗い出して、それに対してこうやって対策していくんですよ、これだったら行けますねということを言えないと、多分僕ら協議会としてあなた賛成したでしょと言われても僕ら責任取れない。という話になると思うので、ぜひそこまで突っ込んだ議論が視察後でできるようにしていただいて、じゃあ市としてこんな対策を用意できる、じゃあこれだったらいいですねという議論をしたいなと思う。じゃないと多分、先に進めない。

会長O．内容についてはそこまでなるとは思わないが。今後の方針が決まらないと、今後は学校教育が実際になるので。

委員O．私の思っていたのは、あくまでも小学校と中学校の建物を一つにしましょうというだけの話であって、小中一貫というと 9 年間の学校生活となる。だけど、小学校と中学校、建物を一緒にして、 3 年と 6 年で分けるとか、なんかちょっとその辺はまだはっきり決まってなくて、あくまでも小学校と中学校を一つの建物として造るという考え。中身はまだ決まっていない。

会長O．意見が 2 つに分かれて今聞いた話も初めて聞くが、今までは小中一貫の意見で系統的にやりたいなということと、施設を一緒にして、現実そうなりそう。坂田は離れているけど、そういう形で話が来ているので、建物だけ一緒にしようという話はあんまり今までは出ていない。

委員O．そうやって一緒にすると、中1ギャップがなくなるけど、別々のほうが新たに3年間、中学生になるから、気持ちとしてはあの時いいからそっちにしましょうという決定は私にはない。要らないと思っていたので、そこはまた1回聞かないといけない。

委員O．まずは小中一緒に建て直すか、小学校だけ建て直すか、この資料で言うと A か B か。その中身の運用をどうこうという前段。小中の建物を一緒に建て替えるのであれば、その先に、小中一貫にするのか、中で、壁を作って小学校と中学校で別々にするのかという話は出てくると思うが、小学校だけ建て替えるのか、小中一緒の場所に建物を建て替えるのかというガワの話をまず決めないと、その中身は決まっていかない。そのガワの話では、一緒に建て替えた方がいいよねという方向に進んでいるという認識はしているが、そこはまだはっきりしてないので、そこをまず決めた方がいいのではという話。その中身はその先にあると思うので。

会長O．今日はその元の資料を出したということ。

委員O．そのとおり。この Aの1、Aの2、Bの1、Bの2じゃなくて、そのAかBかを

まずはっきりしないと思う。B に行くだろうというふわっとした感じ。

会長O．だから今６案ある。で、A の３と B の３は難しいのではないかというご意見が出た。その他は、小学校と中学校一緒にする B の１みたいな意見が多かった。あとは小学校単独という意見は今ここでもあるので、大筋は６案のうちのどれかにしようかなという選択肢が大きい。自然に A か B かになるが、こちらの今のご意見は、小学校と中学校を合体する案と、１年生から９年生を計画する案の小中一貫校が２つあるのではということ。

委員Q．それはまだ後の話ですよねという確認。とりあえず今は建物を一緒にしましょうか、小学校だけ建て替えましょうかという話で、中身の小中一貫というと、多分お母さんたちもそう思うと思うが、９年間１年生からずっと行くとなっちゃうと思う人もいると思う。だから中身はまず別として、建物を小学校と中学校一つの建物にするのか、小学校だけ建て替えるのかというのを先に決めるということですよねという確認をしたい。

委員Q．１年生から９年生までの義務教育学校とは違うということでよいか。

委員A．違う。

委員O．小中一貫というと義務教育学校と混同する。

委員Q．一体の建物にするという理解でよいか。

委員A．よい。中身はまた別物。

事務局A．小中学校で義務教育学校とそうでない場合が２パターンあるということだが、義務教育学校は校長先生１人で、教育課程も変更できるような、先生方も小中学校両方免許を持ってないといけないというような縛りがあるような学校になる。教育委員会としては義務教育学校までは現在は考えていない。小中一貫になったとしても、義務教育学校でない小中一貫、こちらの方であれば検討させていただきたいと思う。その施設が一体となると、小中一貫で一体となっても、ここにあるような課題がありますので、そういったことも本当に一体で造ることでいいのかどうかということをご協議いただきたい。

委員O．今日出された案で建設中の配慮もしていただいていると思うが、場所が現在の千代小にしても坂田小にしても中学校にしても、今あるものをどう建て直すかというのは非常に難しいところで、子どもをあっちにやり、こっちにやりが大変なので、そういう部分は考えなくてもいいのか思う。それは避けた方がいいと思う。そうした時に、中学校、小学校を一体でやり直すとなれば、どうしても坂田小へというのはこの地域としてコミュニティを崩さないこと考えると、こっちに持ってくるしかないと思う。その時に、どっちが先か本当に今のご意見聞いていても難しいが、建物の建て方というのもある。この中にあったように南側に持ってくるか、北側に持ってくるか、その時によって体育館がどういうふうに邪魔してくるか、邪魔しないのか。そうなってくると敷地を広げなければならなくなるかもしれないし、今のように計算上は少なくて済むかもしれないし。それも不安がある。その辺もちょっと疑問に思う。今までの学校は結構人数も多いし、建て替える場合に逆の場所へ持っていきながらやってきているとは思うが、ここは広いようで狭い。昔の学校の敷地がずっときているので、その配置を考えると、この資料だけで考えればちょっ

と難しいかなと思います。あくまで一緒に建て直すとすれば、合理的な部分もあって、少なくて済む部分が多いとは思うが、少し不安がある。

委員O. 新しく校舎を建てるのであれば、坂田小というのはものすごく今広い土地なので便利だが、もともとなぜ千代田中学校、千代田小学校がここにあるかというと、千代田地区の真ん中にあるからここに作りましょうというふうに造ったのではないかなと想像する。それをわざわざ校舎を建て替えるためには、坂田の位置に持っていこうというのは、やはり、千代田地区全体の利にかなってないと思う。造り直すならやはりこの辺りに造っていくことに妥当性はあると思う。その中で、いろいろ議論はこれからあるが、小中で建物を一緒にする。それは前の会議でもあったが、将来の児童数、生徒数の流れを見ていくと、それはある程度やむを得ないのではないかと思う。補修、補修でつなぐことになっても、いずれは建て替えなくてはいけなくなる時が来るので、だったら今のうちに、多分稲沢市の核となる小中一貫、小学校と中学校を同じ校舎に建てるというのは、やむを得ないと思う。

例えば千代田中学校の跡地をメインにして計画をする時に、既存の建物に配慮して、校舎をじゃあどこにやるかというと、また話もなかなか難しくなってくるし、本来なら今建っているあの校舎の立ち位置というのは、やはり運動場は南側に向いている。それを東側、西側というより、北側というのは運動場を北側にするのはあり得ないと思うが、そういった、使いやすさ、そういったものも配慮しながら、最悪、千代田中学校の体育館を壊すことになるかもしれないが、長い目で見てこれから 50 年、今まで 50 年以上使ってきたので、坂田小学校も 50 年。50 年後のことを考えても、必要なお金をやむを得なく使ってしまう。それで、50 年先まで大事に使っていくという、そういった気持ちで、いくべきじゃないかなと思う。あと、小学校の土地というのは今借地があるが、売ってくれる人がいれば売ってもらって広げるとかできると思うので、そういったところも、これは市のお仕事になると思うが、もし決まったなら一番効率的に、将来を見据えていい形で新しい学校を造っていただきたいと思う。

会長O. 今度の 10 月 5 日の視察を踏まえた後の会合で、今日の根本のもの、課題で残されたことを決定しながら、それ以降、順番に内容を詰めていきたいと思う